

平成 28 年度 環境技術実証事業 自然地域トイレし尿処理技術分野

第 5 回技術実証検討会 [議事要旨]

日時	平成 29 年 3 月 16 日(木) 9:30~12:30	
場所	田中田村町ビル 5D	
出席者	<p>■検討員</p> <p>伊与 亨 北里大学医療衛生学部健康科学科 講師 河村 清史 元 埼玉大学大学院理工学研究科 教授 木村 茂雄 神奈川工科大学機械工学科 教授 桜井 敏郎 (公社)神奈川県生活水保全協会 理事 穂苅 康治 槍ヶ岳観光(株) 代表取締役 武井 勇志 長野県環境部 自然保護課長 (代理出席)</p> <p>■環境省</p> <p>吉田 一博 自然環境局 自然環境整備課 課長 大林 圭司 自然環境局 自然環境整備課 課長補佐 二戸 治 自然環境局 自然環境整備課 課長補佐 田丸 義次 自然環境局 国立公園課 課長補佐 比嘉 祐介 自然環境局 自然環境整備課 施設第二係長</p> <p>■試験採取・分析・解析機関</p> <p>高橋 悟 (公財)日本環境整備教育センター 浄化槽システム国際協力センター兼 調査・研究グループ 調査研究第 2 チーム 岡崎 貴之 (一財)日本環境衛生センター 東日本支局環境工学部環境施設計画課 課長代理</p> <p>■事務局 (特定非営利活動法人日本トイレ研究所)</p> <p>上 幸雄、平澤恵介、柏崎和可子 (書記)</p>	
欠席者	宮原 登 長野県環境部 自然保護課長	
申請者	アルコ(株) 羽田野一幸、東和生 (株)一水工業 中井敏雄、武藤英一	
議事	<p>1. 開会</p> <p>2. 報告 自然地域トイレし尿処理技術セミナー 参加者アンケート結果の報告</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 実証試験要領第 12 版の見直し</p> <p>(2) 実証試験結果報告書の検討</p> <p>①株式会社一水工業</p> <p>②アルコ株式会社</p> <p>(3) その他</p> <p>4. その他</p>	
配布資料	<p>資料 1 実証試験の実施状況</p> <p>資料 2 第 4 回技術実証検討会 議事要旨 (案) <非公開></p> <p>資料 3 ETV セミナー参加者アンケート結果 <非公開></p> <p>資料 4-1 実証試験要領第 12 版 検討箇所の方角性</p> <p>資料 4-2 実証試験要領第 13 版(案)</p> <p>資料 5-1 実証試験結果報告書(案) (株)一水工業 <非公開></p> <p>資料 5-2 実証試験結果報告書(案) アルコ(株) <非公開></p>	
公開/非公開	議事は公開で行われた (議事の(2)、(3)、(5-1)、(5-2)は非公開)	

[議事要旨]

○議事

(1) 実証試験要領第12版の見直し

- p11 対象技術の分類において、今回は簡易水洗の文言を削除し、水洗として扱う（河村委員）
- p11 水不要の小分類の欄に土壌処理を追記し、化学処理の特色の欄にはその他を記載する。（河村委員）
- p22 処理性能実証項目に透視度、アンモニア窒素、亜硝酸性窒素、全窒素、有機性窒素、硝酸性窒素、色度を追加で明記する。（河村委員）
- p22 色を色相に変更する。（河村委員）
- p25 実証期間中は汚泥を引き抜くことで装置の状態が不安定になるといけないので迂闊に行わないものとする。調査期間中に引き抜く場合はその費用を申請者が負担することとする。（事務局）
- p28 経年実証について2年以上を経過した、という文面を2年を超えて経過した、に修正する。（河村委員）

(2) 実証試験の途中経過<非公開>

【体裁についての共通事項】

- 用語集にBODの欄を追記する。（桜井委員）

①株式会社一水工業

【報告書の確認】 ※ページ番号等は当日配布した試験結果報告書(案)に基づく

- p2 発生物の最終処分方法を確認する。（河村委員）
- p6、p67 維持管理を説明する箇所に硫酸（薬品）の取り扱いの注意を促す文章を追記する。（分析機関）
- p37 実証装置の消費電力量および薬品使用量の図において8月22日が台風により装置が測定不能だったため、図を修正する。（河村委員）
- p65 通過人数を検討することで大幅に修正するかを検討したい。（事務局）
→通過者の数を富士吉田口と須走口から数を山小屋で割ると設定して、計算する。（桜井委員）

②株式会社アルコ

【報告書の確認】 ※ページ番号等は当日配布した試験結果報告書(案)に基づく

- p4、p65、p68 大腸菌群数の数を30未満ではなく、0と記載したい。（申請者）
→0に修正する。（河村委員）
- p5 窒素が高濃度になる点が課題として挙げられる点について、窒素の蓄積はせず、消化脱窒は行われているという意味合いで記載したい。（申請者）
→修正の文面については分析機関と確認を行う。（河村委員）
- p41 フラッシュ数の推計結果について、利用者数から把握することが難しく、ポンプの稼働を踏まえた場合においても数が大きすぎてしまうため、分析機関と検討する。（河村委員）